

日中数量類別詞の範疇化機能の対照研究

—日本語の「粒」を中心に—

李 月 明*

1. はじめに

- (1) He has one dog / three dogs.
(今里典子, 2004)
- (2) 彼は犬を1匹 / 3匹飼っている。
(今里典子, 2004)
- (3) 他养了一条 / 三条狗。(筆者訳)

ある名詞類の数を表す場合、英語では(1)のように主に語形変化(ゼロ形→S形)によって表す。一方、日本語と中国語では(2)と(3)のように主に類別詞(ここでは「匹」、「条」)を用いて表す。

よって、英語などの印欧諸語は、単数・複数の体系は持っているものの、類別詞の体系は持っていない「非類別詞言語」とされ、日本語や中国語など類別詞の体系を持つ言語は「類別詞言語」とされる。

Aikhenvald (2000) は、類別詞を「名詞の意味的分類を表す言語手段」と定義しているが、従来の研究では、日本語では「助数詞」、中国語では「量詞」と称するのが一般的であった。日中両言語の類別詞について言えば、日本語は古い時代から中国語の影響を受けて、似たような使い方がされるものもある一方で、異なる使い方がされるものもある。言語類型論的に見れば、日本語の「助数詞」も中国語の「量詞」も数量類別詞¹であり、その点において英語などの印欧諸語とは顕著な違いをみせるものといえる。

本稿では、言語類型論および認知言語学の理論

に基づき、日本語と中国語の数量類別詞の範疇化機能に焦点を当てて対照考察を行い、日中両言語における数量類別詞の共通点と相違点を明らかにし、異同の生じる原因を究明する。

2. 理論背景

Aikhenvald (2000) の定義によると、類別詞とは、「名詞の意味的分類を表す言語手段」であり、現れ方によって、おもに「名詞類、名詞類別詞、数量類別詞、所有類別詞、指示類別詞、場所類別詞、関係類別詞、動詞類別詞」の8種類に分類される。そのうち、「数量類別詞」は、数や量を示す際に現れる類別詞として、通常、日本語では「助数詞」、中国語では「量詞」と呼ばれている。氏は数量類別詞をさらに「measural classifiers」(計量類別詞)²と「sortal classifiers」(分類類別詞)³に分類している。

類別詞の機能について、水口(2004a: 15)は、「日本語の数量類別詞は、個別化と範疇化の機能しかもたない」と指摘している。

張(2012: 27)によれば、類型論の視点からみて、「世界语言中的各类分类词实质都是一个名词分类系统, 都是指明名词项在某语言系统中的语义特征, 分类是各类分类词共有的, 根本的功能(世界諸言語の類別詞は、実際においては名詞の類別体系であるとし、それは名詞の指示対象のある言語系統における意味的特徴を明らかにする機能を持つが、この類別機能は類別詞における共有的、根本的な機能である)」としている。

*北京外国語大学大学院生

3. 先行研究の概観

3.1 日中類別詞の先行研究

日本語の数量類別詞に関する研究として、松本(1991)、梅本(2004)が挙げられる。

松本(1991)は、原型意味論の枠組みを利用した上で、「コ」、「ホン」、「ケン」などの形状、非形状類別詞の意味分析を行い、個々の類別詞の意味構造とそれらが構成する体系の性質についての考察を行った。

梅本(2004)は、類別詞「本」の起源とその展開についての考察を行い、日本語の類別詞「本」の意味特徴について詳しく分析している。

中国語の類別詞に関する研究として、おもなところでは石(2001)、秦(2015)が挙げられる。

石(2001)は、「条」、「張」、「塊」、「片」などの類別詞の意味特徴の分析を通して、中国語の形状類別詞を認知する上での根本的な基盤を明確に定義づけた。

秦(2015)は、類別詞「張」の通時的および共時的研究をまとめた上で、「張」と「条」、「片」、「幅」、「塊」との意味特徴を対照させて、「張」の認知プロセスおよび意味拡張のメカニズムについて詳細な考察を行った。

類別詞に関する日中対照研究としては、おもに以下のものが挙げられる。

翟(2008)は認知言語学の視点から日本語の形状助数詞「本」と中国語の形状量詞「条」について対照研究を行った。

郭(2014)は、認知言語学の視点から、日本語の助数詞「枚」とそれに対応する中国語の量詞について対照研究を行った。

李・朴(2019)は日中類別詞の範疇化体系をまとめた上で、「平たいもの」を範疇化する日本語の類別詞「枚」とそれに対応する中国語の類別詞について対照を行った。

3.2 先行研究の不備

以上の先行研究を概観すると、類別詞の個別言語の研究は、構造主義観点からの形式意味論的記述が多く、類別詞の範疇化に関する対照研究は「細長いもの」の「本」と「平たいもの」の「枚」ぐらいで、他の形状/非形状類別詞に関する研究、特に類別詞の範疇化機能に関する研究は、まだ不十分であり、あまり研究成果が見られないのが現状である。

したがって、本稿では辞書解釈(『数え方の辞典』)とコーパス調査(『中日対訳コーパス』⁴、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)⁵、『BCCコーパス』⁶)に基づき、「丸くて小さいもの」を類別・範疇化する日本語の典型的類別詞「粒」を中心に、それに対応する“粒/顆/塊”などの中国語の類別詞を体系化し、範疇化における日中両言語の認知プロセスの異同、およびその原因についての分析も試みたい。

中国語の類別詞研究について、張(2012)は次のように指摘した。“只有个体量词的作用与 classifier 相当，不过个体量词与 classifier 只是外延相同，两者的定义不同（中国語において classifier (類別詞) と類似した機能を持つものは、个体量詞のみであり、二者はただ外延が同じであるだけで、その定義は異なる)。”したがって、多言語を視野に入れた中国語个体量詞の研究は、理論的かつ応用的意義が大きいのと言えよう。

以上の所論を踏まえて、本稿では、日本語の「個別類別詞」と中国語の“个体量词(个体量詞)”の範疇化を研究対象として比較・対照を行いたい。本稿では説明上の便宜のため、「個別類別詞」と“个体量词(个体量詞)”をまとめて「類別詞」と呼ぶことにする。

4. 日中「丸くて小さいもの」の範疇化

4.1 日本語における「丸くて小さいもの」の範疇化

4.1.1 日本語の「粒」の辞書解釈

まず、飯田朝子（2004）『数え方の辞典』を参照し、日本語における「丸くて小さいもの」を表す「粒」の使用状況についてみてみたい。以下に「粒」の項目の解説を示す。

- (4) 丸い粒状のものを数える。
 - a. ブドウの実・梅の実・サクランボウ・イチゴ・ナッツ類など、指先でつまめる程度の大きさの実を数える。「イチゴ5粒をケーキに飾る」。
 - b. 小さい穀物・種子類の個々を数える。「頬にご飯が2粒ついている」。
 - c. 一口で食べられる食品を数える。「チョコレート1粒」「ワンタン10粒」。
 - d. 宝石や真珠を数える。「5粒の真珠をあしらったブローチ」「2粒のダイヤモンドが入った指輪」。
 - e. 錠剤を数える。健康補助剤を数える傾向がある。「サプリメント3粒」。
 - f. しずくを数える。「1粒の涙」。

以上の日本語の類別詞「粒」の辞書解釈を基に、「粒」と共起する名詞を中国語に訳し、それらの名詞と共起する中国語の類別詞（専用量詞）を『現代漢語量詞用法詞典』で確認し、その類別詞の分類を以下の表1のようにまとめた。なお、ある名詞がいくつかの中国語の類別詞と共起可能な場合、BCCコーパスで検索した結果、ヒット数の最も多い類別詞を選択した。

以下では、コーパスから例文をいくつか取り上げ、中国語の類別詞と共起する名詞との関係を中心に考察する。以下、中国語文、日本語文の順に提示する（下線は筆者によるもの）。

- (5) 玲子摇摇头，吃了几颗葡萄。（《挪威的森林》村上春樹）

表1 辞書解釈による日本語の「粒」と対応する中国語の類別詞

日本語の類別詞	範疇化に基づく分類		中国語の類別詞	単語例
粒	①典型的範疇	「ゼロ次元・点」に近い立体物に注目	粒	ご飯（飯粒）、種子（種子）、サプリメント（補助栄養品）、チョコレート（巧克力）
			顆	ブドウの実（葡萄）、梅の実（梅子）、サクランボウ（櫻桃）、イチゴ（草莓）、ナッツ類（堅果類）、真珠（珍珠）、ダイヤモンド（钻石）
	②他の範疇	その他の特徴に注目	只	ワンタン（馄饨）
			滴	涙（眼泪）

レイコさんは首を振ってから葡萄を幾粒か食べた。（『ノルウェイの森』村上春樹）

- (6) 譬如一粒种子，正因为内中本含有枝叶花果的胚，长大时才能够发出这些东西来。（《彷徨》鲁迅）

たとえば、一粒の種だが、その内部に枝や、葉や、花や、実になる胚子をはじめから含まれているからこそ、成長したときに、それらのものが発生してくるのだ。（《彷徨》鲁迅）

- (7) 馄饨一只只很大，汤上飘着葱花和猪油，散着热气。（《战争和人》王火）

一粒一粒のワンタンが大きくて、そのスープにみじん切りのネギとラー油がかけられている。湯気が立つほど熱い。（筆者訳）（『戦争と人間』王火）

- (8) 每一滴汗，每一滴血，都是由生命中流出去的，所以每一件事都有值得说的价值。（《骆驼祥子》老舍）

汗の一粒一粒、血の一滴一滴が、すべて命そのものから流れてたものであったから、どのひとつの事件も言いおとすことができなかったのだ。（『骆驼祥子』老舍）

以上の対照例(5)~(8)から分かるように、日本語の類別詞「粒」に類別・範疇化されている名詞は、「典型的範疇」と「他の範疇」にさらに分類されるが、それぞれの範疇には、数種の中国語の類別詞が対応している。表1についての具体的な分析は、後節4.2で行いたい。

4.1.2 コーパスから見る日本語の「粒」の範疇化

前節では、辞書解釈から見る日本語の「粒」とそれに対応する中国語の類別詞の対応関係をまとめた。この節では、コーパスを利用し、日本語の「粒」とそれに対応する中国語の類別詞の対応関係について考察する。

表2は、『中日対訳コーパス』に収録された日本語原文と日本語訳文の作品から「粒」を検索し、それに対訳されている中国語の類別詞との関係を整理したものである。日本語原文と訳文には類別詞「粒」が213例検索されているが、名詞的用法と類別詞対訳の無い用例等を除き、最終的に36の例文を取り出し、表2に整理した。

表2のコーパスによる調査結果によると、日本語の「粒」に類別・範疇化されている「丸くて小さいもの」の名詞は、「典型的範疇」「周辺の範疇」および「他の範疇」の三つに再分類される。それぞれの範疇において、数種の中国語の類別詞が使われていることがわかる。

次節では、表1、表2の内容を参照した上、認知言語学の理論を基に、類別詞「粒」とそれに対応する中国語の類別詞を分析考察したい。

4.2 調査結果の分析

表1、表2から見ると、日本語の類別詞「粒」は、「ご飯2粒」、「イチゴ5粒」などのように、通常「丸くて小さいもの」を類別・範疇化するのに使われていることがわかる。これらは「粒」範疇のプロトタイプ的な例であると考えられるが、実際には、「粒」は固体から液体まで、かなり広範囲に使われていることがわかる。ただ、二者の違い

は、固体状の「粒」は恒常的であるのに対し、液体状の「粒」は臨時的である。

表1、表2に示したように、日本語の「粒」によって類別・範疇化される名詞は「典型的範疇」、「周辺の範疇」と「他の範疇」の三つに細分される。その範疇化プロセスは次のようである。

まず、「典型的範疇」の場合、日本語における名詞、例えば「種子(种子)」、「ブドウ(葡萄)」、「真珠(珍珠)」などは、「ゼロ次元・点」に近い固体であり、いわばプロトタイプ的な成員である。これらのプロトタイプ的な成員は、日本語においては、類別詞「粒」で類別・範疇化される。一方、中国語においては、「丸くて小さいもの」の類別・範疇化に類別詞“粒”“颗”と“丸”が使われる。言語を問わず、「典型的範疇」において名詞が指示するモノは、意味特徴の最も典型的な成員(固体)から比較的典型的な成員(液体)まで連続的に分布している。表2の「典型的範疇」には液体の「涙(眼泪)」、「汗(汗/汗珠)」なども入っているが、その原因は、「涙(眼泪)」、「汗(汗/汗珠)」などを液体としてではなく、液体が零れる時の臨時形状が「丸くて小さい」「ゼロ次元の個体」と捉え、それらの意味特徴に注目しているからであると思われる。

次に「周辺の範疇」は、「三次元・立体性に注目するもの」である。

「三次元・立体性に注目するもの」を類別・範疇化する場合、中国語では類別詞“块”が使われる。中国語話者は、“块”によって数える“糖(キャラメル/キャンデー)”を、「小さい直方体」に近いものとして捉えている。表2の文例のように、「让他们共咬一块糖果(一粒のキャンデーを二人にかみ切らせる)」ということになる。しかし、日本語話者は、キャラメルを立体性よりは「丸くて小さい」イメージを際立たせて捉えていると考えられる。要するに、同一のものであっても認知の捉え方によって異なる範疇化がなされるということである。

表2 コーパスによる日本語の「粒」に対訳されている中国語の類別詞

日本語の 類別詞	範疇化に 基づく分 類		中国語 の類別 詞	出現 頻度 (回)	出現パー センテ ージ (%)	単語例	文例		
							日本語	中国語	
粒	① 典型的 範疇	「ゼロ 次元・ 点」に 近い立 体物に 注目	粒	15	42%	種子類 (种子类)、 穀物 (谷 物)、ブ ドウ (葡 萄)	鯉の子 (鯉 鱼子)、銀砂 子 (银色砂 子)、ダイヤ (钻石)	ある日、その塗布さ れたあとを主人が 見ると、瓜の種が一 粒附着しておりま した。	有一天，涂完 药之后，我去 看丈夫，见伤 口上粘着一粒 瓜籽。
			顆	13	36%	真珠 (珍珠)、 果物 (果子)、 涙 (眼泪)、 水滴 (水珠)、 汗 (汗/汗珠)	すると彼は、子ども たちに茴香豆を分 けてやる。一人に一 粒ずつである。	他便给他们茴 香豆吃，一人 一颗。	
			丸	2	5.6%	丸薬 (丸药)	祥子にそのお札の 飲ませ方を教え、丸 薬を一粒だして、お 札といっしょに飲 むようにと虎妊の 手ににぎらせた。	然后她指导着 祥子怎样教虎 妞喝下那道神 符，并且给她 一丸药，和神 符一同服下去。	
	② 周辺の 範疇	「三次 元・立 体性」 に注目	块	2	5.6%	キャラメル/キャンデー (糖)	どんちゃん騒ぎに は、一粒のキャン デーを二人にかみ 切らせるとか、りん ごの食べくらべを させるとか…	下边的闹堂— 一如让他们共 咬一块糖果啦、 共争一只苹果 啦……	
	③ 他の 範疇	その他 の特征 に注目	个	1	2.8%	水滴 (水滴)	私は一粒の水滴と なって、今はまだ小 さなその溪流に流 れこみたい。	我愿意作一个 小小的水滴， 汇集到这一支 现在还很细小 的溪流中。	
			滴	2	5.6%	涙 (眼泪)、汗 (汗/汗珠)	汗の一粒一粒、血の 一滴一滴が、すべて 命そのものから流 れてたものであつ たから、どのひと つの事件も言いお とすことができな かったのだ。	每一滴汗，每 一滴血，都是 由生命中流出 去的，所以每 一件事都有值 得说的价值。	
			点	1	2.8%	露 (露珠)	真珠のようにまる い露が幾粒か、水面 に近い蓮の葉の上 にたまっていた。	几点露珠凝在 紧贴水面的莲 叶上，像珍珠 般圆润。	
	合計	/	/	/	36	≈100%	/	/	/

最後に、「その他の特徴に注目する」という「他の範疇」について試みる。

その①中国語の“个”については次のように述べる事ができる。

“水珠（水滴）”を範疇化する場合、中国語では「形状を捉えにくい個体」を範疇化する類別詞“个”を使い、はっきりとした「点状」ないし「立体状」ではない「点」ないし「個性」に注目する。一方、日本語の場合は「水滴（水珠）」は液体が零れる時の臨時的形状に焦点を当て、「丸くて小さい個体」として範疇化している。これはメタファーによる「粒」範疇の意味拡張であると思われる。

②中国語の“只”については次のように述べる事ができる。

中華料理の“馄饨（ワンタン）”という食べ物は、小麦粉で作った薄皮で野菜や豚のひき肉を包んだものであり、ゆでてスープに入れて食べるものである。中国語の類別詞“只”は「一部の動物」や「対になるモノの片方」を範疇化する他に、「船」をも範疇化する。「船」は一般的に海や川に浮かんでいる状態であるが、同じように、“馄饨（ワンタン）”も普通、スープに浮かんでいるという状態である。これはモノの「状態」に注目する範疇化である。“只”で“馄饨（ワンタン）”を範疇化する理由は、類似性という、メタファーに動機付けられるものといえよう。また、“只”については、意味の希薄化とともに文法化していて、主に数える機能を持つ“个”の用法に相当するものという説もある。したがって、“只”で形状の捉えにくい“馄饨（ワンタン）”を範疇化するという解釈もできよう。

日本語の場合は、「状態」に注目するのではなく、ワンタンの内容物であるあんという「丸くて小さい」部分をプロファイルし、他の部分を背景化した上で、類別詞「粒」を使って類別・範疇化していると考えられる。

③中国語の“滴”と“点”については次のように述べる事ができる。

『現代漢語量詞用法詞典』によると、“滴”と“点”は共に「液体の少ない量を計量する」とある。“滴”で数える“眼泪（涙）”、“水珠（水滴）”、“汗/汗珠（汗）”などの名詞は「典型的範疇」にある名詞と共通しているが、その場合、「ゼロ次元的な個体」という意味特徴に注目するのではなく、液体の物質としての量を指すのである。つまり、“滴”と“点”は分類類別詞ではなく、計量類別詞に近い性質をもっているといえよう。日本語の場合、これら液体の量に関しても類別詞「粒」を用いるということは、類別詞「粒」は計量類別詞の用法も兼ね備えていると考えられる。

表2の中国語の類別詞の出現頻度およびそのパーセンテージは、日本語の類別詞「粒」範疇の拡張した特性を反映しているように思われる。「典型的範疇」におけるパーセンテージは83.6%、「周辺の範疇」は5.6%、「別の範疇」は11.2%であり、プロトタイプの成員から周辺の成員へと拡張するにつれて、類別詞の使用頻度が低くなっていき、範疇化される名詞もかなり限られていくと考えられる。

5. 本研究の新しい知見と今後の課題

本稿では、辞書調査とコーパス調査の二つの方法を用い、事例分析を基に、日本語の「丸くて小さいもの」を範疇化する類別詞「粒」とそれに対応する中国語の類別詞の対応関係を探り、日中類別詞をミクロ的に考察した。考察を通じて以下のような結論が得られた。

1) 日本語では「丸くて小さいもの」を範疇化する際、主として類別詞「粒」を用いる。一方、対訳する中国語の分類類別詞は、「ゼロ次元・点」に近い立体物に注目する“粒”“顆”と“丸”、「三次元・立体性」に注目する“块”、「個性」に注目する“个”、「状態/個性」に注目する“只”と「モノの量」に注目する計量類別詞の“滴/点”などがあって、日本語のそれと対比すると、かなり細分化さ

れていることが分かる。

2) 「粒」の意味拡張プロセスは、「粒」のプロトタイプの成員のイメージ・スキーマ「丸くて小さいもの」が、「類似性」の連想というメタファーに動機づけられ、「周辺の範疇」、「他の範疇」へと拡張していく過程と考えられる。

本稿では、日本語の類別詞「粒」の範疇化プロセスを中心に中国語との対照考察を行った。今後の研究課題としては、中国語における「丸くて小さいもの」を範疇化する典型的類別詞“粒”と“顆”の範疇化プロセスを中心に、日本語の類別詞との対応関係を考察し、日中両言語の双方向的対照を考えている。

注

- 1 数量類別詞は類別詞の一種である。
- 2 筆者訳。
- 3 筆者訳。
- 4 北京日本学研究中心開発。
- 5 国立国語研究所開発。
- 6 北京語言大学開発。

参考文献

- 飯田朝子 (2004) 『数え方の辞典』小学館
- 今里典子 (2004) 「非類別詞/類別詞言語を決定する要因について」『類別詞の対照』(西光義弘・水口志乃夫編) 39-57
- 梅本孝 (2004) 「類別詞「本」について」『静岡産業大学国際情報学部研究紀要7』
- 奥津敬一郎 (1986) 「日中対照数量表現」『日本語学』8月号 明治書院
- 松本曜 (1991) 「日本語類別詞の意味構造と体系：原型意味論による分析」『言語研究』99号 82-106
- 水口志乃扶 (2004a) 「類別詞とは何か」『類別詞の対照』(西光義弘・水口志乃夫編) 3-22
- 水口志乃扶 (2004b) 「日本語の類別詞の特性」『類別詞の対照』(西光義弘・水口志乃夫編) 61-77
- 郭先珍 (2002) 《现代汉语量词用法词典》语文出版社
- 郭蓉菲 (2014) 〈从认知语言学看日语助数词「枚」所对应的汉语量词〉《湖北科技学院学报》2014年6月第34卷第6期
- 李月明, 朴贞姬 (2019) 〈汉日数分类词范畴化功能的对比研究〉《汉日语言对比研究论丛(第10辑)》浙

江工商大学出版社

- 秦志朋 (2015) 《现代汉语量词“张”的研究》沈阳师范大学硕士学位论文
- 石毓智 (2001) 《表物体形状的量词的认知基础》《语言教学与研究》2001年第1期
- 荀恩东等 (2016) 〈大数据背景下BCC语料库的研制〉《语料库语言学》2016年第3卷第1期
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》商务印书馆
- 张赫 (2012) 《类型学视野的汉语名量词演变史》北京大学出版社
- 翟东娜 (2008) 〈汉日形状量词的认知分析——“条”与“本”〉《认知语言学入门》外语教学与研究出版社
- Aikhenvald, Alexandra (2000) *Classifiers: A Typology of Noun Categorization Devices*. Oxford: Oxford Univ. Press
- Matsumoto, Yo. (1993) *Japanese Numeral Classifiers: A Study on Semantics Categories and Lexical Organization*. *Linguistics* 31, pp.667-713.